

2016年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑事訴訟法)

次の(設例)を読んで、問(1)、(2)に答えなさい。

(設例)

警察官Kらは、覚せい剤取締法違反罪(覚せい剤の自己使用)の逮捕状によりXを逮捕すべく、Xの滞在先の甲ホテルに赴いたところ、Xが同ホテル1階ロビーにいたため、その場でXを通常逮捕した。ところが、Xから、自己の宿泊する714号室に置いてある荷物を携行したいとの申出があったので、Kは、これを許し、Xとともに714号室に赴き、同室において、室内を搜索し、ビニール袋入りの覚せい剤0.1グラムおよび注射器を差し押さえた。

検察官は、Xについて、甲ホテル714号室における覚せい剤0.1グラム所持の事実で公訴を提起したうえ、上記覚せい剤0.1グラムを証拠調べ請求したところ、弁護人は、異議がある旨の意見を述べた。

問(1)(配点:25点)

714号室の搜索および覚せい剤等の差押えの適法性について論じよ。

問(2)(配点:25点)

裁判所は、検察官請求に係る覚せい剤0.1グラムを証拠として採用することができるか。ただし、問(1)の搜索・差押えは違法なものとする。